

■ 概況

1/18～1/24のNYMEX・WTI先物市場は73.41～75.19ドルの範囲で推移した。

1月25日は、米国の第4四半期の実質経済成長（GDP）が3.3%と市場予想（2.0%）を上回る好調で、米経済の底堅さを示す一方で、紅海では親イラン武装組織フーシ派による船舶攻撃が発生、供給不安から大きく続伸した。3月物終値は前日比2.27ドル高の77.36ドル。

週末26日は、前日に続き、紅海の緊張激化、前日発表の米国の好調な経済指標を受けて、続伸した。週末を迎え、高値による利食い売りも見られた。3月物終値は前日比0.65ドル高の78.01ドル。

週明け29日は、香港高裁が中国不動産大手恒大集団に清算手続きを命令、また、格付け大手も、中国経済の鈍化を予想、中国経済の先行き不安から、4営業日ぶりに反落した。3月物終値は前営業日比1.23ドル安の76.78ドル。

30日は、国際通貨基金（IMF）は、2024年の世界経済成長見通しを3.1%と前回見通し比0.2ポイント上方修正、また、バイデン大統領は、親イラン組織によると見られる28日のヨルダン北東部の米軍拠点へのドローン攻撃で死傷者が発生したとして、報復を予告した。景気の軟着陸観測、紛争拡大懸念から反発した。3月物終値は前日比1.02ドル高の77.82ドル。

31日は、この日発表の前週末の米国石油在庫統計が予想に反する積み増し、また、中国の1月の製造業景況指数（PMI）が50を割り込み、先行き石油需給の緩和感が拡大し反落した。なお、米国連邦準備制度理事会（FRB）は、4会合連続で金利の据え置きを決定したが、声明で利下げの可能

性を示唆、利上げが否定されたことで、大きな影響はなかった。3月物終値は前日比1.97ドル安の75.85ドル。

中東産ドバイ原油/東京市場（3月渡し）は、1月18日～24日の間、77.70～79.70ドルの範囲で推移。1月25日80.10ドル、26日81.50ドル、29日83.20ドル、30日80.20ドル、31日80.50ドル。

対ドル為替レート（TTM）は、1月18日～24日の間、148.15～148.26円の範囲で推移。1月25日147.86円、26日147.70円、29日148.25円、30日147.38円、31日147.55円。

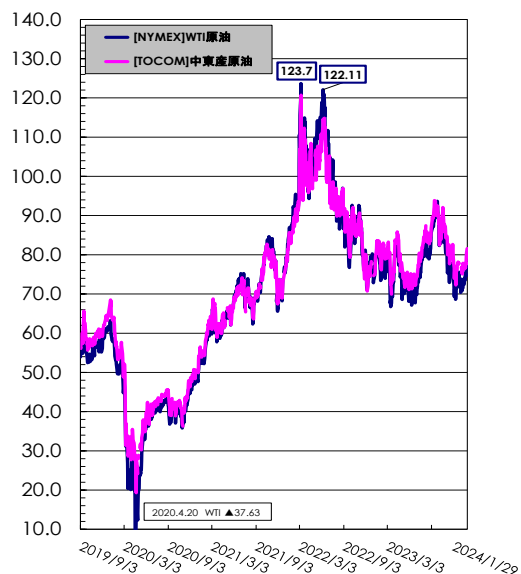
財務省が1月30日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、1月上旬の原油輸入平均CIF価格77.249円で前旬比4.288円安、ドル建て86.12ドルで前旬比3.46ドル安、為替レートは1ドル/142.62円。

そのような中で、1月29日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値下がり、軽油も同0.1円の値下がり、灯油も同1円の値下がり（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は175.0円となった。

2月1日～7日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は21.4円（補助金がない場合の次週予想価格196.2円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は11.2円）となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	1/21 ~ 1/27	2,879 ▼ -46	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	80.1 ▼ -1.3	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	1/27	10,017 ▼ -980	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	1/29	81.58 ▲ 4.94	▲ 0.5
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	1/29	76.78 ▲ 1.59	▼ -1.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	1月上旬	86.12 ▼ -3.46	▼ -2.15
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	77,249 ▼ -4,288	▲ 3,913
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	142.62 ▲ 2.08	▼ -10.53
	外国為替TTSLレート (¥/\$)	1/29	149.25 ▼ -0.05	▼ -18.14

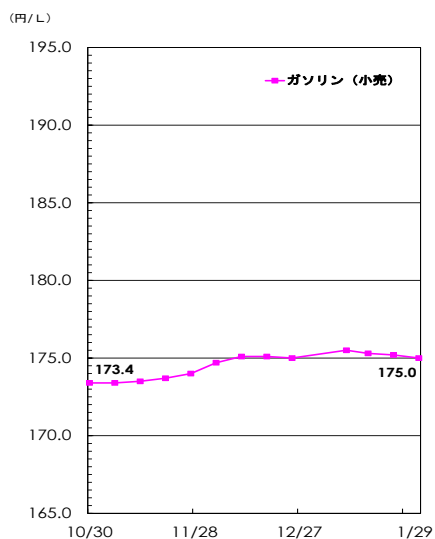
(\$/b)



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/21 ~ 1/27	804 ▼ -120	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	819 ▲ 69	▲ -	
	輸出	"	40 ▼ -71	▼ -	
	在庫	1/27	1,835 ▼ -54	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/23 ~ 1/29	77.6 ▼ -1.2	▲ 5.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/23 ~ 1/29	81.0 ➡ 0.0	▲ 6.0
		(TOCOM/中部)	1/29	79.0 ➡ 0.0	▲ 5.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/29	175.0 ▼ -0.2	▲ 6.9	

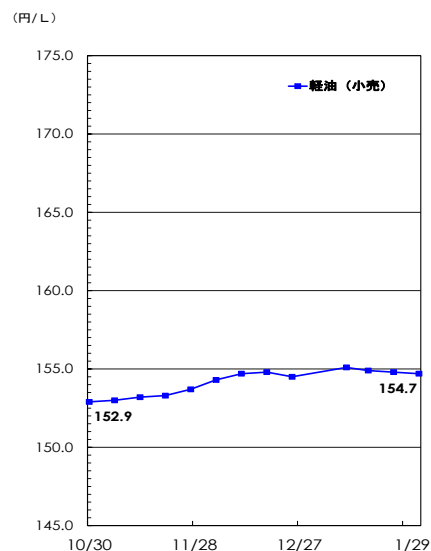
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

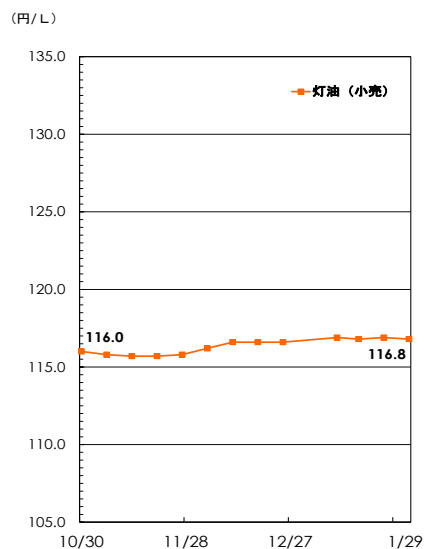
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/21 ~ 1/27	636 ▼ -83	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	603 ▼ -37	▼ -	
	輸出	"	176 ▲ 151	▲ -	
	在庫	1/27	1,521 ▼ -143	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/23 ~ 1/29	78.9 ▼ -0.9	▲ 3.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/23 ~ 1/29	82.8 ▼ -0.8	▲ 5.2
		(TOCOM/中部)	1/29	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/29	154.7 ▼ -0.1	▲ 6.4	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	1/21 ~ 1/27	307 ▲ 44	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	440 ▲ 13	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	1/27	2,017 ▼ -134	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/23 ~ 1/29	80.4 ▼ -0.6	▲ 3.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/23 ~ 1/29	82.5 ➡ 0.0	▲ 4.0
		(TOCOM/中部)	1/29	80.0 ▼ -2.0	▲ 2.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/29	116.8 ▼ -0.1	▲ 5.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(1月25日~31日)のWTI石油先物市場は、紅海の船舶攻撃等中東情勢が緊迫化する中、堅調な米国経済指標もあり続伸の77.36ドルで始まり、26日は続伸78.01ドルを付けたが、中国不動産大手恒大の精算命令の出た週明け29日は反落、IMFの24年経済見通しの上方修正で30日は反発、軟調な中国の経済指標・米国在庫の増加報告のあった31日は反落、75.85ドルで終わった。週を通じて、70ドル台半ばの水準を推移したが、不安定な動きだった。

1月31日発表の26日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油在庫が前週比120万バレル増と市場予想(20万バレル減)に反する積み増しであった。

EIAによると、1月29日時点で、ガソリンの小売価格は、前

週比3.3セント高の1ガロン3.095ドル(121.9円/%)と2週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比2.9セント高と2週ぶりの値上がりの1ガロン3.867ドル(152.3円/%)。

ペーカーヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、1月26日時点で、前週比2基増の499基と3週ぶりで増加した。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2024年1月21日~1月27日に休止したトッパー能力は10.5万バレル/日で、前週に対して横ばいだった(全処理能力は323.0万バレル/日)。

原油処理量は287.9万klと、前週に比べ4.6万kl減少。前年に対しては23.7万klの減少。トッパー稼働率は80.1%と前週に対して1.3ポイントの減少、前年に対しては4.0ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/13.0%減、ジェット/15.8%減、灯油/16.6%増、軽油/11.5%減、A重油/4.5%減、C重油/14.2%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl。軽油の輸出は17.6万kl(前週比15.1万kl増)。

出荷(輸入分を除く)はガソリン、灯油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリンが増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は81.9万kl(対前週9.2%増)と3週連続で増加した。ジェット4.7万kl(対前週53.9%減)、灯油44.0万kl(対前週3.1%増)、軽油60.3万kl(対前週5.8%減)、

A重油22.4万kl(対前週6.1%減)、C重油12.1万kl(対前週32.0%減)。

(単位:千kl)

	今週 (1/21 ~ 1/27)	前週 (1/14 ~ 1/20)	前週比	
ガソリン	819	750	▲ 69	(9%)
ジェット燃料	47	102	▼ -55	(-54%)
灯油	440	427	▲ 13	(3%)
軽油	603	640	▼ -37	(-6%)
A重油	224	239	▼ -15	(-6%)
C重油	121	178	▼ -57	(-32%)
合計	2,254	2,336	▼ -82	(-4%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

1月27日時点の在庫は全ての油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェットが減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは183.5万kl、前週差5.4万kl減。前年に対しては8.0万kl多い。

灯油は201.7万kl、前週差13.4万kl減。前年に対しては2.2万kl多い。

軽油は152.1万kl、前週差14.3万kl減。前年に対しては5.6万kl多い。

A重油は71.0万kl、前週差1.1万kl減。前年に対しては0.1万kl多い。

C重油は190.6万kl、前週差1.9万kl減。前年に対しては22.4万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (1/27)	前週 (1/20)	前週比	
ガソリン	1,835	1,889	▼ -54	(-3%)
ジェット燃料	806	809	▼ -3	(-0%)
灯油	2,017	2,151	▼ -134	(-6%)
軽油	1,521	1,664	▼ -143	(-9%)
A重油	710	721	▼ -11	(-2%)
C重油	1,906	1,925	▼ -19	(-1%)
合計	8,795	9,159	▼ -364	(-4.0%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

1月23日～29日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートの円安が加わり、元売会社の卸価格建値は3.0円の値上がりになったものと見られる。

上記コストに先週の補助金額18.2円を加え、今週の補助金21.4円を差し引いた、2/1～2/7の実質卸価格は0.2円の値下げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

1月23日～29日の製品スポット市況は、1月16日～22日平均と比べ、ガソリンと灯油の先物の横ばいを除き、他の油種・取引は値下がった。

直近週(1/23～1/29)の陸上スポット価格平均値は、前週(1/16～1/22)比で、ガソリンは1.2円の値下がり、灯油も0.6円の値下がり、軽油も0.9円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(1/23～1/29)に、前週(1/16～1/22)比で、ガソリンは0.7円の値下がり、灯油も0.3円の値下がり、軽油は1.4円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油も横ばい、軽油は0.8円の値下がりだった。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (1/23～1/29)	前週 (1/16～1/22)	前週比
	レギュラー	77.6	78.8
灯油	80.4	81.0	▼ -0.6
軽油	78.9	79.8	▼ -0.9

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値 [平均]]	今週 (1/23～1/29)	前週 (1/16～1/22)	前週比
	レギュラー	81.0	81.0
灯油	82.5	82.5	→ 0.0
軽油	82.8	83.6	▼ -0.8

※上記価格は税抜き価格

参考値 (1/23～1/29実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -1.2	→ 0.0	▼ -0.6
灯油	▼ -0.6	→ 0.0	▼ -0.3
軽油	▼ -0.9	▼ -0.8	▼ -0.8
A重油	▼ -0.9		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

1月29日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円安の175.0円、軽油も0.1円安の154.7円、灯油は18 $\frac{1}{2}$ ベースで1円安の2,103円(1 $\frac{1}{2}$ ベースでは0.1円安の116.8円)。ガソリンは3週連続の値下がり、軽油も3週連続の値下がり、灯油は2週ぶりの値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが8県、横ばいは長崎等9県、値下がりが30都道府県だった。全国最安値は徳島県の167.8円、その次は宮城県の169.0円であった。他方、最高値は長野県の184.2円。最も値上がりしたのは和歌山県(同1.2円高)、最も値下がりしたのは山梨県(同1.2円安)だった。

次回調査時(2/5)のガソリンの小売価格は、小幅な値下がりが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (1/29)	前週 (1/22)	前週比	直近高値
レギュラー	175.0	175.2	▼ -0.2	23/9/4 186.5
灯油	116.8	116.9	▼ -0.1	08/8/11 132.1
軽油	154.7	154.8	▼ -0.1	08/8/4 167.4

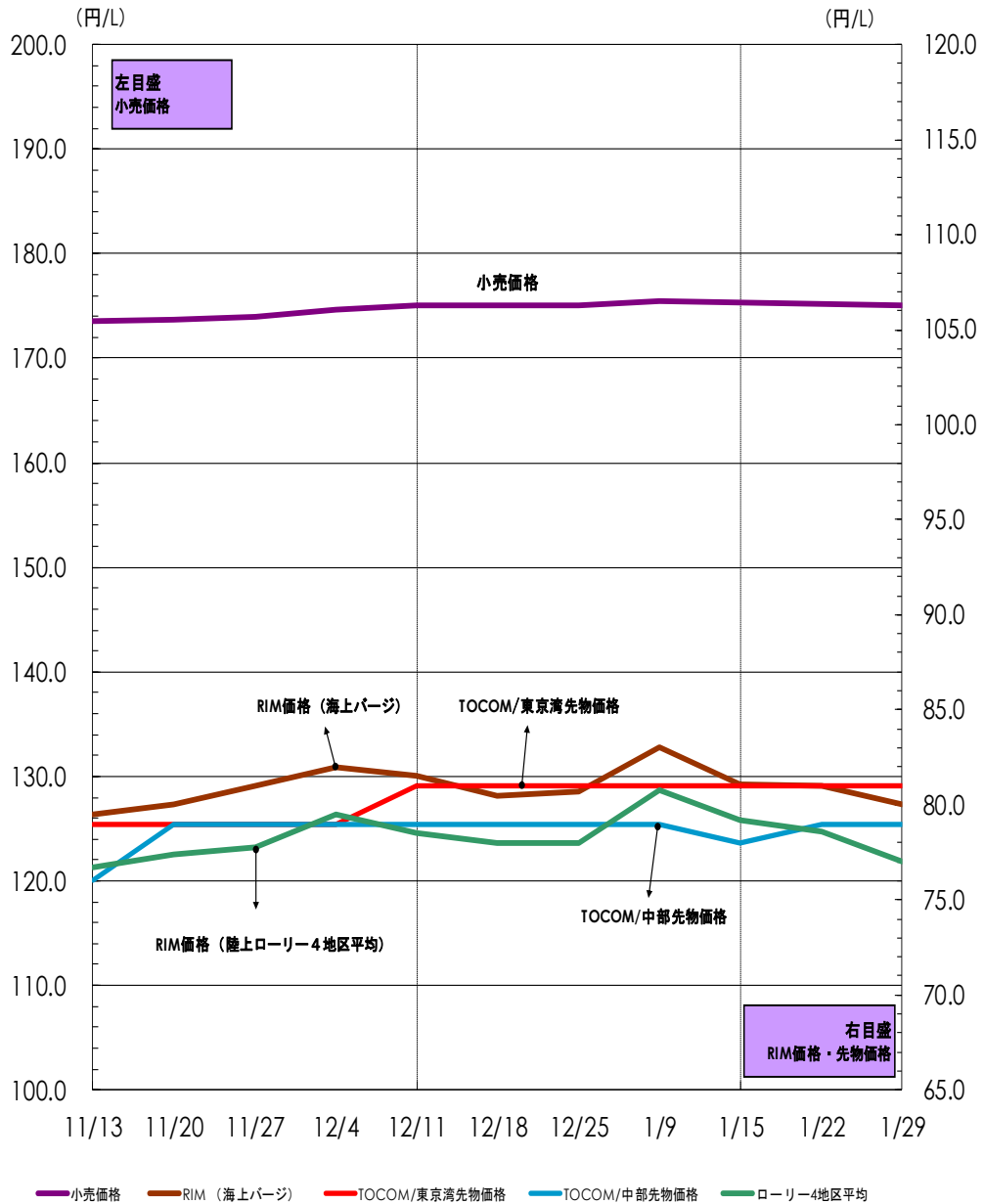
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/11/13 ~ 2024/1/29)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2023第42号) の公表は、2/9 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層 (特に給油所経営に携わる方々) から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所 (The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限 (翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」 (旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社 (RIM) 「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用 (いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格 (平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格 (平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。